

アイヌの人たちの歴史・文化③ シャクシャインの戦い

■ 戦いに至る背景

松前藩の財政的基盤がアイヌ民族との交易の独占権と渡来する商船等への課税権にあったことから、蝦夷島を和人が住む「和人地」とアイヌ民族が住む「蝦夷地」に区分し、他の地域と自由な交易活動をしていたアイヌ民族を「蝦夷地」に封じ込め、「蝦夷地」を藩主と上級家臣の独占的なアイヌ交易の場とする「商場知行制」*1を実施したことが、アイヌ民族に極めて不利な状況をもたらす結果となりました。特に、交易比率がアイヌの人たちに著しく不利であったことや、「蝦夷地」での鷹場*2や砂金採取場の設置、大網による鮭の大量捕獲等が、アイヌ民族の生産と生活に大きな打撃を与えました。このような事態が重なり、アイヌ民族の松前藩や和人に対する不満が大きくなっていました。

また、アイヌ社会においては、各河川流域を軸として、首長を中心とした地域的集団が形成され、反松前藩・反和人の戦いに立ち上げられるだけの力を内包していたといえます。

■ 戦いの経過

この戦いは、まずアイヌ民族内部の集団間の争いから始まります。1648年、シベチャリ（現新ひだか町）アイヌとハエ（現日高町）アイヌの生活領域（イオル）の境界をめぐる争いが表面化し、1668年まで断続的に続きます。1669年ハエ側が松前藩に援助の要請をしましたが拒否され、その使者が帰途に疱瘡（天然痘）で死亡したことが、「松前藩による毒殺」として伝えられました。アイヌ民族は松前藩、和人に対する敵対意識を強め、「松前藩を滅ぼし、アイヌ民族の自由な交易を回復しよう。」というシベチャリ側の首長シャクシャインの呼びかけに呼応し、石狩地方を除く東はシラヌカ周辺、西はマシケ周辺のアイヌ民族が一斉蜂起し戦いとなりました。幕府は、幕藩体制をあげてこの蜂起の鎮圧に臨み、鉄砲とアイヌ軍の分断作戦によってアイヌ軍を追い詰めた上で和睦を呼びかけ、その和睦の酒宴の場でシャクシャインを謀殺しました。このことによりアイヌ軍の勢力は衰えてしまい、戦いはアイヌ軍の敗北で終結します。

■ 戦い後の状況

松前藩は、この戦いに勝利した後、各地のアイヌの首長に絶対的な服従を誓わせる七か条からなる起請文*3を受諾させ、アイヌ民族に対する政治的・経済的支配を一段と強めました。さらに、「商場知行制」から商人主体の「場所請負制」*4へと移行した後は、アイヌ民族にとって一層厳しい生活を強いられることとなります。

- *1 商場でアイヌの人たちとの交易権を家臣に与え、それを給与とする制度
- *2 鷹狩りをする場所
- *3 松前藩に絶対服従を要求する文
- *4 商人が知行主に上納金（運上金）をおさめ、そこで交易を請け負う制度

【出典】『アイヌ民族に関する指導資料』（財）アイヌ文化振興・研究推進機構
『アイヌの歴史と文化』榎森 進編 「アイヌの歴史と文化」刊行促進協議会
『アイヌ民族一問一答』上村英明 解放出版社



アイヌ語 豆知識

3号で自然の地形等を表すアイヌ語に由来する地名を紹介しました。そのほかにも土地の動物や植物、アイヌの人が感じたことなどを表す言葉に由来する地名があります。

いろいろな特徴を表すアイヌ語地名の例

- ・サル（葦の生えた湿地）⇒佐呂間町、猿払村、更別村、尾猿内（仁木町）、去来牛（釧路町）など
- ・アツ（オヒョウニシの木）⇒厚岸町、厚真町、厚床（根室市）、厚軽臼内（月形町）など
- ・ユク（エゾシカ）⇒幾千世（日高町、浦幌町）、幾寅（南富良野町）、など
- ・ポロ（大きい、広い）⇒幌延町、幌別（登別市）、幌内（三笠市、雄武町、釧路町）など
- ・ポン（小さい）⇒本別町、奔別町（三笠市）、本岐（津別町）、奔渡町（厚岸町）など

【出典】『北海道地名誌』NHK北海道本部編 北海道教育評論社
『北海道の地名』山田秀三 著 北海道新聞社

渡島管内は、「コシャマインの戦い」など、1, 300年代から道南に住み始めた和人とアイヌの争いが続いた地域であり、各市町の小学校社会科の副読本は、アイヌの人たちの文化や歴史を紹介したり、調べさせたりする内容となっています。

記載例

◆ 知内町副読本より

和人の開いていた鍛冶屋（鉄で道具を作る人）に、アイヌの少年が、小刀（マキリ）を注文したところ、その質や値段について言いあらそいになって、少年がさし殺されてしまったのです。

そこでアイヌの人々の不満は一気にばく発し、各地で戦争が起きました。それを率いたコシャマインは、そのころ道南にあった和人のやしきである12の館のうち10もの館を攻め落としました。

（ここ知内にも、脇本館というやしきがあり、南条季継という人が住んでいました。）

しかし、上ノ国の花沢館にいた武田信宏が、すきをみて、コシャマイン親子を射殺しました。この戦いを「コシャマインの戦い」といいます。



◆ 松前町副読本より

・・・このような時に、アイヌの青年が和人のかじ屋にマキリ（小刀）を注文しました。ところが、できあがったマキリのでき具合と、値段のことから争いになり、かじ屋がアイヌの青年を殺してしまいました。これがきっかけとなり、和人とアイヌの人たちの間で大きな戦いが起こりました。これを「コシャマインの戦い」とよんでいます。

内容例

◆ 鹿部町

アイヌの人たちの1年の主な仕事や祭りを紹介し、祭りや踊りと暮らしとのかかわりや自然を巧みに利用したアイヌの人たちの暮らしの工夫について考えさせる内容となっています。

わじん たなか
和人との戦い、
とくにコシャ
マインの戦い、
(1457年)と
グシャインの戦
い (1669年)を
調べてみましょ
う。

しらべること

- まつりやおどりとくらしのかかわり
- 自然をたくみに利用したアイヌの人たちのくらしのくふう

アイヌの人たちは、クマがアイヌの国へ自分の肉をおみやげに持ってくる神だと考え、クマを食べることによって、元氣がふえると信じていました。



アイヌの人たちの歴史・文化等に関する教材の紹介

中学生向け副読本

「アイヌ民族：歴史と現在 - 未来を共に生きるために -」

全道の中学校2年生に配布されている中学生向けの副読本『アイヌ民族：歴史と現在 - 未来を共に生きるために -』が、改訂されました。

内容は、「原始・古代」「中世」「近世」「近代」「近現代」の各時代区分に関する社会や文化について記述され、特に、近・現代の政治・社会及び文化の内容の充実を図っています。後半では、アイヌ語について分かりやすく取り上げ、生徒がアイヌの人たちの歴史と文化等について一層関心を高め、主体的に学習できるように工夫されています。

4月以降、すべての中学校に配布されますので、積極的な活用をお願いします。

<作成 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構>

